

台湾タケクマバチの生態観察（朝来市・三木市）

近藤伸一¹⁾

台湾タケクマバチは外来のハナバチの1種で、国内では関東から中国地方にかけて記録されており（柴田, 2020）、兵庫県においては2016年に初めて記録されてから2023年にかけて阪神、神戸、東播磨、西播磨で記録されている（吉田, 2021；東, 2023 ほか）。

2023年6月初めて朝来市内で確認し、9月には多数の成虫を観察した。但馬地域では初めての記録であり、観察場所が自宅近くであったため、1回の観察時間を5分と定めできる限りの観察を行った。

今年は大木市内で広く発生しており、大木市内における本種の情報、写真、巣など貴重なデータを米澤めぐみ、中州知子、室園康生の各氏に提供していただき、台湾タケクマバチの生態を知ることができた。厚くお礼申し上げます。

1 朝来市での観察

① 2023年6月25日、朝来市立脇の住宅地の舗装道路上を低く飛ぶ台湾タケクマバチを採集した。この場所は、4月から月3回のペースでチョウ類のルートセンサスをしている3000mのルート上で、その後注意しながら9月23日まで13回通過しているが確認できたのはこの1例だけである。（写真1・2）

② 2023年9月1日、上記で確認した場所から北に400m離れた場所（朝来市立脇 写真3・4）でノアズキの花に集まる多数の台湾タケクマバチを確認した。この場所は、住宅地の斜面、2m×6mの広さにノアズキが繁茂し、開花期で多種の昆虫が吸蜜に集まっていたため9月1日～15日にかけて観察を行った。（表1）



写真1. 朝来市で初めて確認した場所



写真2. 採集した成虫 6月25日



写真3. 調査地 ノアズキの群落 9月2日



写真4. 調査地 正面から

¹⁾ Shinichi KONDO 兵庫県朝来市



写真5. ノアズキの花粉を付けた成虫 9月10日



写真6. 腹を折り曲げて吸蜜 9月10日



写真7. キムネクマバチ 9月12日



写真8. マークした個体

・活動時間帯と確認個体数

1回の観察時間を5分間と定め、この間に確認できた最大の頭数を記録したのが表1である。タイワンタケクマバチは7時～15時の間で確認できた

・吸蜜時間

1回の吸蜜時間は短く2～3秒程度で、花に潜り込んでからすぐに飛び立ち、せわしく次々と花をめぐる。 (写真5・6)

・占有性

タイワンタケクマバチが飛翔中や吸蜜中に別個体が10～20cmまで接近するのを何度も観察したが、お互い追飛することはなかった。またノアズキの花に集まるキムネクマバチ、ニホンミツバチやチョウ類など他種の昆虫に対しても同様で、占有行動を観察することはなかった。 (写真7)

・マーキング調査

9月4日に4頭のタイワンタケクマバチにマーキングしたが、マーク個体はその後の10日間、延べ32回の観察で再確認できなかった。 (写真8)

・他の昆虫

吸蜜に集まっていた昆虫はタイワンタケクマバチのほかに、キムネクマバチ、ニホンミツバチ、イチモンジセセリ、チャバナセセリ、オオチャバナセセリ、キタキチョウ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、ベニシジミで、オオカマキリがこれらの昆虫を狙って潜んでいた。9月上

表1. タイワンタケクマバチの確認頭数

月日	時間帯	7～	8～	9～	10～	11～	12～	13～	14～	15～	16～	計
9月1日		-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	2
9月2日		-	-	-	6	1	2	2	1	0	0	12
9月3日		-	1	2	2	5	2	4	3	0	-	19
9月4日		1	2	3	3	-	2	2	1	-	-	14
9月5日		-	-	-	-	-	0	0	0	-	-	0
9月6日		-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	0
9月7日		-	-	-	1	-	0	-	-	1	-	2
9月8日	時間帯別	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
9月9日	頭数	0	-	0	0	-	-	-	-	0	-	0
9月10日		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
9月11日		-	-	-	0	-	5	-	0	-	-	5
9月12日		-	-	1	-	2	2	-	0	-	-	5
9月13日		-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2
9月14日		-	-	-	0	-	1	-	-	-	-	1
9月15日		-	0	-	0	-	-	-	-	-	-	0
	計	1	3	7	14	8	15	8	6	1	0	63

*観察時間は各時間帯 5分間

旬はヤマトシジミの数が多く、10日以降はウラナミシジミが10～20頭集まり、連日交尾が見られた。

・観察地周辺の吸蜜植物

観察地周辺で吸蜜できそうな開花植物(クズ、タラノキ、センニンソウ、コマツナギ、クサギ、ヒヨドリバナ、カワラケツメイ、アキノノゲシ、ヘクソカズラ)を何度か観察したが、タイワンタケクマバチの吸蜜は確認できなかった。

2 三木市での生態観察

・三木市自由が丘本町での観察例

米澤めぐみ氏の観察では, 2023年6月ごろから連日庭に現れ, ホタルブクロの花に潜り込んで吸蜜(写真9), ホタルブクロの開花時期が終わるとクレマチス・ロウグチ(写真10), ニンジンボク(写真11)の花で吸蜜, 8月末まで姿を見せた. タイワンタケクマバチが現れる期間はマルハナバチの仲間の数が減った気がする.

・三木市志染町中自由が丘での観察例

中州知子氏は2023年7月26日, 庭に植えている黒竹の3~4年以上たった生の竹30本に蜂の穴を見つけ(写真12・13), 竹を割って巣を確認したところ, すでに羽化したもの, 蛹などを確認, 撮影された.(写真14・15)



写真9. ホタルブクロで吸蜜 6月10日(米澤撮影)



写真10. クレマチス・ロウグチで吸蜜 8月18日(米澤撮影)



写真11. ニンジンボクで吸蜜 8月28日(米澤撮影)



写真12. 巣穴のあった黒竹30本(中州撮影)



写真13. 巣穴(中州撮影)



写真14. 巣の中, 1羽化, 7蛹(中州撮影)



写真15. 巣の中, 羽化が進んだ巣(中州撮影)



写真 16. h = 1.55 m の位置に巣穴



写真 17. 巣の中 羽化終了 右端に死亡幼虫

・三木市三木山森林公園での観察例

室園康生氏によると三木山森林公園内で最初に確認したのは7月3日で、その後多数の成虫を確認されている。7月10日頃に巣穴の開いた竹を発見され一節間を割ると成虫と蛹が入っていた。巣は垂直に立てかけている直径2～3cm程度の乾燥した竹に限り、地上高1.5m付近に侵入孔が多かった。9月末頃には成虫の姿を見なくなった。

9月14日に室園康生氏から三木山森林公園内で採集の侵入穴がある竹をいただき、持ち帰って巣を観察した。巣穴の位置はh = 1.55 m, 羽化済みで、死亡幼虫が残っていた(写真16・17・18)

また、室園氏は三木自然愛好研究会主催の“川ガキ教室”で参加者から「6月中旬から三木市大塚町の畑で見た」との情報を得られている。



写真 18. 死亡幼虫

参考文献

東輝弥, 2023. タイワンタケクマバチ (*Xylocopa tranquebarorum*) の行動観察. きべりはむし 46(1): 26-27

上森教慈, 2018. 兵庫県尼崎市でタイワンタケクマバチを採集. きべりはむし 41(1): 31

柴田剛, 2020. 小野市と明石市でタイワンタケクマバチを確認. きべりはむし 43(2): 55

吉田浩史, 2021. 神戸市内からのタケクマバチの記録. きべりはむし 44(1): 10